

項目	自己評価
短大組織マネジメント	<p>(1) 教学体制・人材の強化と教育力の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実学重視徹底のためのFDを実施した。 2) 専門性の高い人材(実務家教員を含む)の確保と実学教育の質を向上させた。 <p>(2) 子ども園、アフタースクール、小中、高校クッキングコース、高校医療系コース等との連携強化による特色作り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子ども園や高校クッキングコースとの協働・連携を行った。 <p>(3) 2018年度専攻科(調理専攻)設置と充実</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2019年度以降のあり方を検討した <p>(4) 2020年度第三者評価提出用報告書案を作成した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎となる報告書を作成した。 <p>(5) マナー指導等を通じた学生の社会人基礎力の向上</p> <p>(6) 2019年度学生募集活動の活性化による生活学科食物栄養専攻80名、児童生活専攻50名、臨検検査学科80名の定員確保</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生募集の幹部専担者を配置することによる戦略的募集活動を行った。 2) 高校・塾への効果的な訪問、オープンキャンパスの改善による志願者のきめ細かいフォローを行った。 3) 指定校の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・生活学科は、従来の530校に156校を追加し、合計686校とした。 4) 「自己推薦入試」に代わり9月以降は「AO2期試験」を実施した。 5) 指定校等への徹底訪問・勧誘活動と新規校開拓による志願者数増加 6) WEBサイト及びSNSを活用した迅速且つ有効な入試広報活動とフォローアップを行った。 7) web出願を実施した。
生活学科・専攻科	<p>〔食物栄養専攻・専攻科調理先専攻〕</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会人基礎力及び栄養士としての確かな知識の上に高度な調理技術の積み上げ <ol style="list-style-type: none"> 1) 優れた専門職教員(実務家教員を含む)及びプロシェフ等外部講師による実学指導を行った。 2) 調理基礎技術を指導した。 3) 専攻科進学につなげる学科カリキュラムの見直しを行った。 4) リメディアル教育(達成度別指導)を行った。 5) マナー講習を実施した。 6) 求人企業とのパイプの構築を促進した。 (2) 調理室及び厨房等での実学重視による実践的技術の習得 <ol style="list-style-type: none"> 1) 第2調理室を使用しての高校クッキングコースとの連携を行った。 2) 親子レストランを展開した。 (3) 専攻科(調理専攻)修了生の就職先の確保 <ol style="list-style-type: none"> 1) 修得技術や知識を生かせるレストラン、カフェ、割烹等への就職を確保した。 <p>〔児童生活専攻・専攻科児童生活専攻〕</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども園教員と専攻教員の行き来を促進し、実学を重視した教育を実施 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子ども園教員との行き来を積極的に展開し、インターンシップ等の内容を充実させた。 2) 「座学から実学へ」を標榜するカリキュラムを編成した。 3) 専攻の特色を周知させるオープンキャンパス等入試広報活動を実施した。 (2) 実学重視により社会人基礎力、専門知識に加え応用力実践力に富む幼稚園・保育所向け人材の養成 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子ども園との連携による専門性の向上を図った。 2) 実習の事前・事後指導を充実させた。 (3) 教育課程の見直し <ol style="list-style-type: none"> 1) 専攻科の6つの専門コースの内容・方法の見直しを行った。 2) 実学教育を視野に入れた必修科目の見直しを行った。

項目	自己評価
臨床検査学科	<p>(1) 高い国家試験合格率と就職内定率の維持</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国家試験に備えた学生指導技方法の改善向上を行った。 2) 知的トレーニング時間 (ITH) 活用による主体性の育成を行った。 3) 過去3年間の入学者の成績、適性を早期に検証した。 4) 新渡戸フォリオの活用によるラーニングアウトカム確認を行った。 5) 2クラス制および2校舎を利用したカリキュラムの作成を行った。 <p>(2) コミュニケーション能力のある臨床検査技師の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療人としての基礎力を磨くためのゼミ活動活性化を図った。 2) 医療人としての資質向上指導を行った。 3) 実習病院担当者によるコミュニケーションに関する講話及び接遇講演を行った。 4) 模擬患者参加によるコミュニケーション能力向上実習を行った。 <p>(3) ベテラン・若手のバランスの取れた優秀教員の確保 (非常勤講師を含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の能力向上のために更なるFDの活用を行った。 2) 専門領域に合わせた偏りのない専任教員の確保を行った。 <p>(4) 一流病院として評価の高い実習病院の確保</p>
研究所	<p>[子ども教育研究所]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究紀要発行の継続 <ol style="list-style-type: none"> 1) 各教員の研究成果の発表を行った。 (2) 各部署との連携による地域への発信と貢献 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域産学連携委員会による講座を開催した。 2) 外部講師による研修会を開催した。 <p>[臨床検査研究所]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 新渡戸文化短期大学臨床検査学研究所学術雑誌第3号の発行 <ol style="list-style-type: none"> 1) 2017年度ゼミナール発表会要旨を論文化し、学術雑誌第3号を発行した。 (2) 研究員による研究に関する情報共有ならびに研究員の学術向上のため、研究報告会を年4回開催 <ol style="list-style-type: none"> 1) 5月、7月、11月、1月の第4週金曜日に研究報告会を開催した。 <p>[新渡戸・森本研究所]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 新渡戸稲造と森本厚吉に関する資料および情報の収集 <ol style="list-style-type: none"> 1) 関係団体等で開催される会議への出席、関連施設を訪問した。 (2) 収集資料の整理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1号館3階から新たな収納場所に移動した保管資料の確認と整理を行った。